

第 3 次石狩市男女共同参画計画の提言に向けて

●第 3 次石狩市男女共同参画計画策定スケジュール

推進委員会、行政推進会議をそれぞれ年 3 回予定、計画策定スケジュールは下記のとおりとなります。

月	推進委員会	その他
6 月		第 2 次石狩市男女共同参画計画 進捗状況取りまとめ
7 月	第 1 回 ・第 2 次石狩市男女共同参画計画進捗状況について ・第 3 次石狩市男女共同参画計画提言案について H26②のグループワークの意見を深めて提言案の項目を絞る	
8 月	↑上記、グループワークの意見をまとめ書面協議し、提言案作成	
9 月	【上旬】市へ提言書提出	
10 月		【上旬】 第 1 回行政推進会議 推進委員会の提言書を受け、 計画原案協議
11 月	【上旬】第 2 回（予定） ・第 3 次計画原案提示、協議 ↑上記、協議結果をまとめ書面提示し再協議	
12 月		【上旬】第 2 回行政推進会議 推進委員会の協議を踏まえ、 計画原案決定
1 月		パブリックコメント実施
2 月	【中旬】第 3 回（予定） ・パブリックコメント結果報告	【下旬】第 3 回行政推進会議 計画決定
3 月		

●第 3 次石狩市男女共同参画計画策定方針

第 3 次石狩市男女共同参画計画の策定方針については、前回の会議（平成 26 年度第 2 回、平成 27 年 2 月 26 日開催）でお示ししたとおりとなります。この策定方針を踏まえて行ったグループワークで、委員のみなさまから下記のとおりご意見をいただいています。

若年層への啓発

- ・男女の性差を認識したうえでの男女共同参画や男女平等の推進
- ・相手を尊重する意識の醸成（男女共同参画、人権、デート DV など各種啓発）

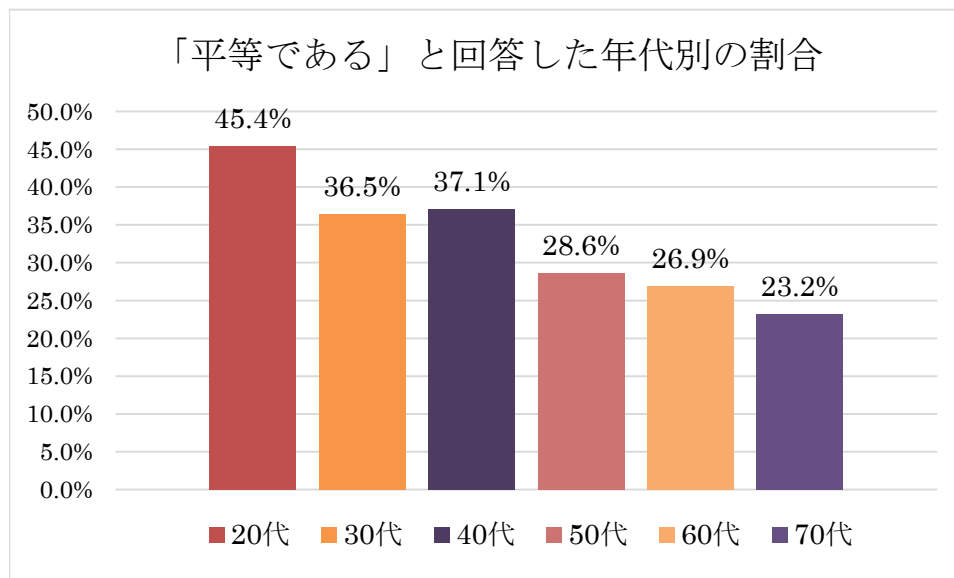
ワーク・ライフ・バランスの推進

- ・男性の家事、子育て、介護、地域活動への参加促進
- ・夫婦、家族間コミュニケーションの促進

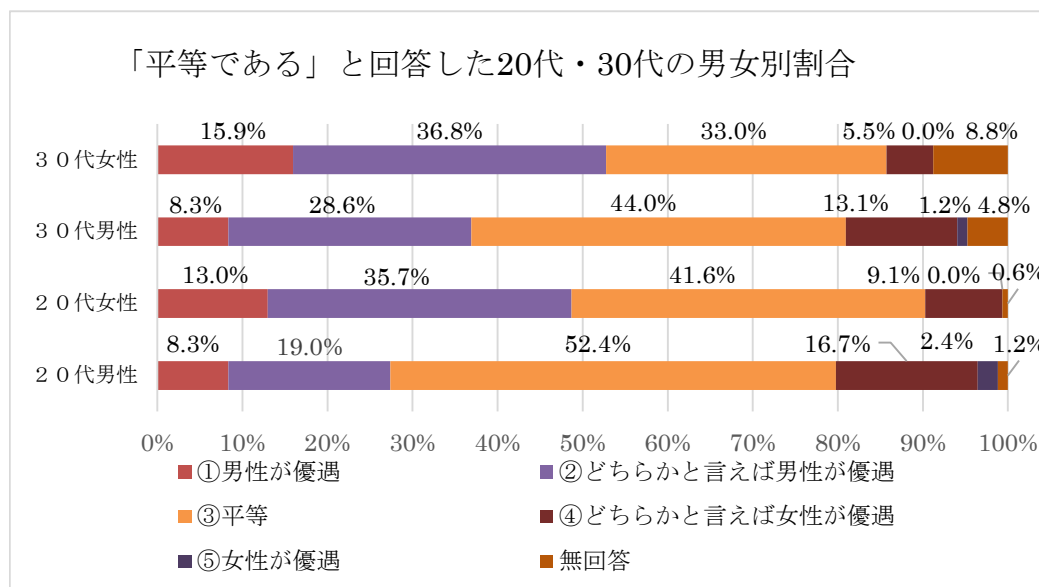
●グループワーク意見についての現状と課題

1. 若年層への啓発

平成 26 年度に実施した男女共同参画に関する市民意識調査において、男女平等に関する意識について「平等である」と回答した年代別の割合は、20代が最も高く 45.4%、70代が最も低く 23.2%、年代が上がるにつれ「平等である」と回答した割合が低くなる傾向にあります。

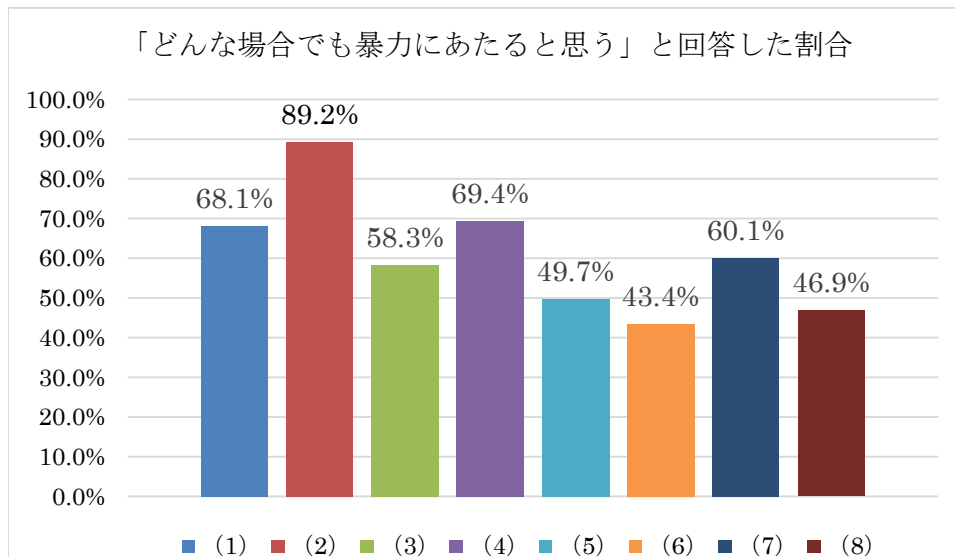


最も高い 20 代でも 45.4%と半数以下である結果を鑑みると、年代を問わず広く啓発することが必要であると考えますが、今後、地域社会全体で「男女共同参画社会」を推進していくためには、子どもの頃からの意識づくりが必要不可欠であるため、若年層に対する取組みが優先すべき課題であると考えます。



なお、「平等である」と回答した男女別の割合は、20代・30代ともに女性より男性のほうが、約 10%高く、「男性が優遇」（①と②の合計）と回答した割合は、20代で 21.4%、30代で 15.8% 男性より女性のほうが高い結果となっています。

次に、男女間における暴力に関する市民調査において、下記の（１）～（８）の行動や行為が「暴力にあたると思う」と回答した割合を見てみると、身体的な暴力（１）（２）（４）についての認識が約 70%以上と高い一方で、精神的な暴力（５）（６）（８）についての認識は 50%以下と低い傾向にあります。



- (1) 平手で打つ
- (2) 身体を傷つける可能性のある物でなぐる
- (3) なぐるふりをして、おどす
- (4) いやがっているのに性的な行為を強要する
- (5) 何を言っても長期間無視し続ける
- (6) 交友関係や電話を細かく監視する
- (7) 「誰のおかげで生活できるんだ」とか、「かいしょうなし」と言う
- (8) 大声でどなる

また、DV を受けた時に「どこ（誰）にも相談しなかった」と回答した割合は 51.6%と半数の人が相談していないこと、DV について「相談できる窓口を知っている」と回答した割合は 39.9%と半数以上の人が窓口を認識していないことが課題であると考えます。

以上のことから、DV 防止の啓発や相談窓口の周知については、学校や地域や家庭など多角的な視点を持ち推進していくことが必要と考えます。

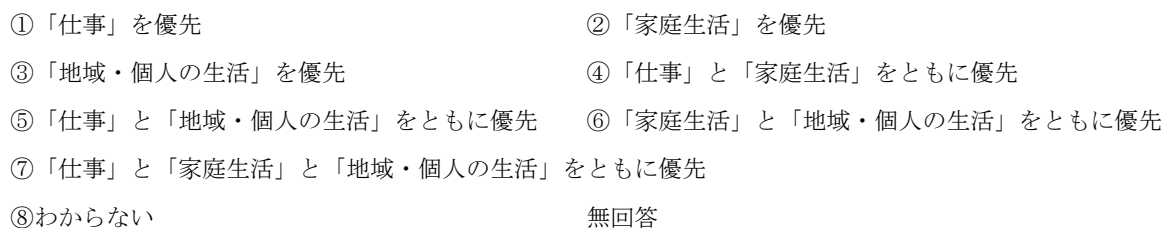
現在、若年層向けに実施している主な施策事業

- ・デート DV 講座（藤女子大学）
- ・デート DV 防止啓発パンフレット配布（市内高校 1 年生）
- ・CAP プログラム（市内小学 3 年生、市内幼稚園保育園年長児）
- ・人権擁護委員による人権教室
- ・保健や道徳の授業で男女共同参画意識を高める学習

平成 26 年度に実施した男女共同参画に関する市民意識調査において、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について、女性と男性がそれぞれ希望するライフスタイルと現実のライフスタイルを下記のとおり回答しています。

- ・希望で一番高い割合は「④『仕事』と『家庭生活』をともに優先」で29.1%、次いで「⑦『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先」で20.7%
- ・現実で一番高い割合は「『家庭生活』を優先」で29.6%

- ・希望で一番高い割合は「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」と「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先」で21.1%
- ・現実で一番高い割合は「『仕事』を優先」で30.3%



このギャップを解消する一つの方法として、男性の家事、子育て、介護、地域活動への参加が考えられます。

- ・夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる
- ・労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにする
- ・男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす

以上のことから、男性の家事、子育て、介護、地域活動への参加を促進することがワーク・ライフ・バランスの推進、あるいは女性の活躍推進が図られるものと考えます。

●グループワーク

提言書作成に向けて２つのテーマについての現状と課題を認識し、第３次石狩市男女共同参画計画掲載施策について検討していただきます。